

厚生労働省委託事業

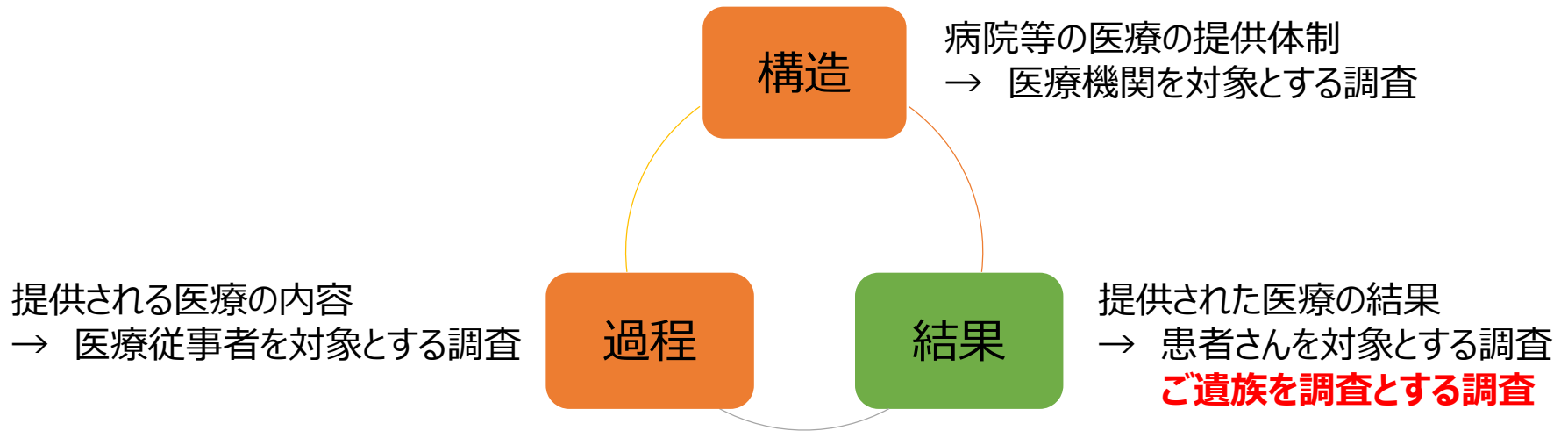
**患者さんが亡くなる前に利用した医療や
療養生活に関する実態調査 概要**

国立がん研究センター がん対策情報センター がん医療支援部

なぜご遺族に調査を行うのか

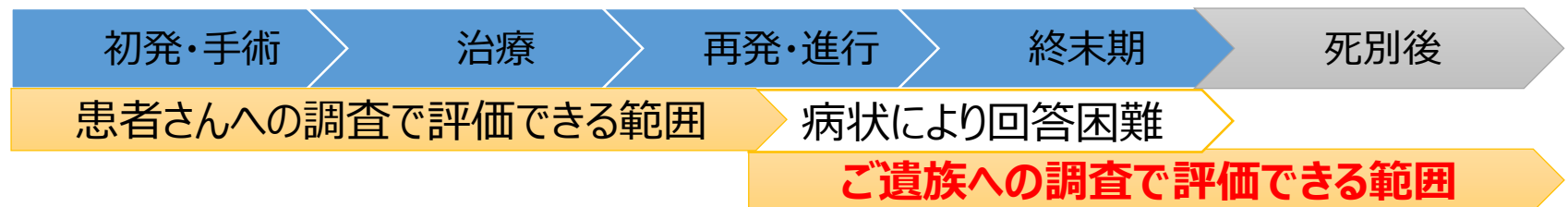
● 医療の質の評価

大切な最期の時間をその人らしく、より良く過ごすことができる医療を実現するため、患者さんが亡くなる前に利用した医療や療養生活の実態を明らかにすることが必要である



「がん治療と並行されて提供される医療」の結果だけではなく（患者さんを対象とする調査）
「患者さんが亡くなる前に提供される医療」の結果、「望ましい最期」が達成されているかについても評価することが求められている（ご遺族を対象とする調査）

● 医療の質を評価するための調査の実施時期と対象



わが国で行われている調査

日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団により、ご遺族を対象に患者さんが利用した医療の質を評価するために、J-HOPE (The Japan Hospice and Palliative Care Evaluation) 研究が行われている。

- 目的：ご遺族から見た、患者さんが亡くなる前に提供された医療の質や療養生活の質を明らかにする
- 対象施設：全国のホスピス・緩和ケア 病棟と在宅で緩和ケアを提供する施設
- 対象者：対象施設で亡くなられたがん患者さんのご遺族
- 調査方法：自記式質問紙を用いた郵送調査

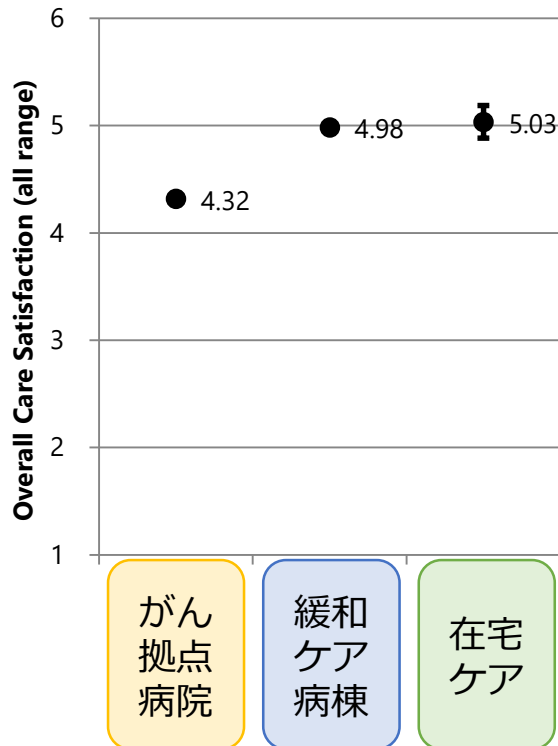
	緩和ケア病棟		在宅ケア施設		一般病棟	
	施設数	回答数	施設数	回答数	施設数	回答数
2007年	100	5311(66%)	14	292(65%)	-	
2010年	103	5820(60%)	15	698(68%)	24	1279(55%)
2014年	133	7294(69%)	22	1018(70%)	20	841(55%)

在宅や一般病棟で亡くなられた患者さんの調査が十分に行われてない

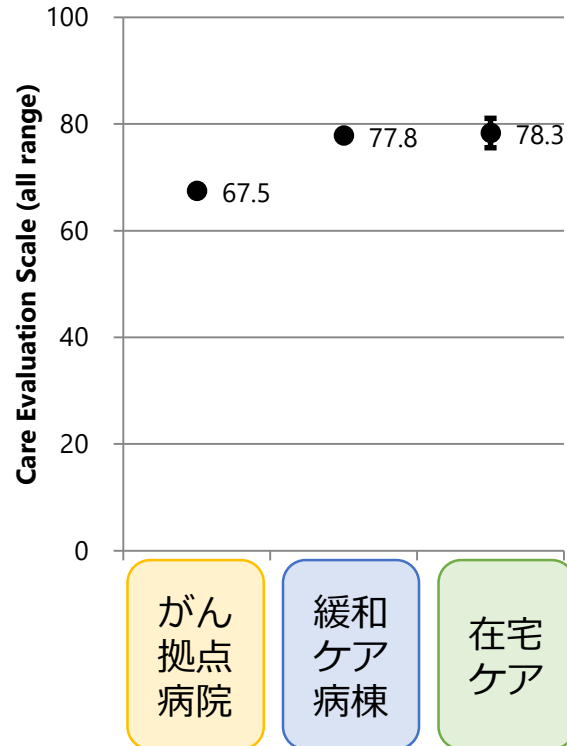
わが国で行われている調査

J-HOPE研究の結果

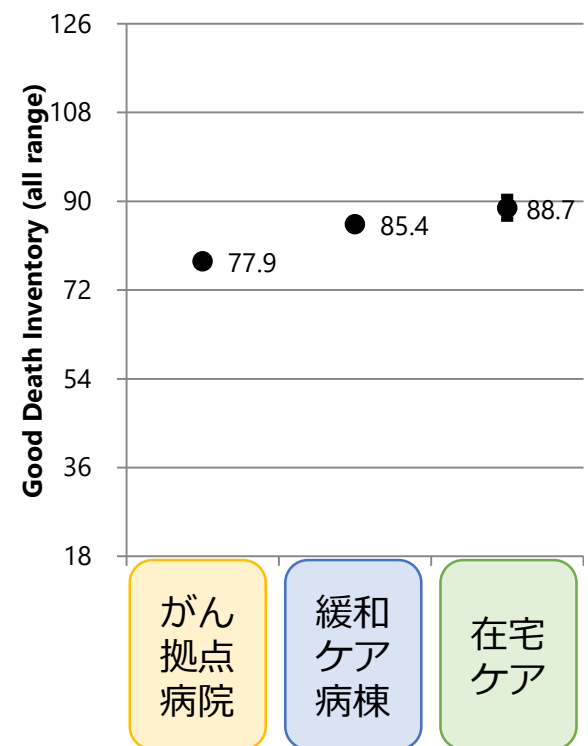
亡くなる前に受けた医療
満足度



亡くなる前に受けた医療
構造・過程



亡くなる前の療養生活
望ましい最期

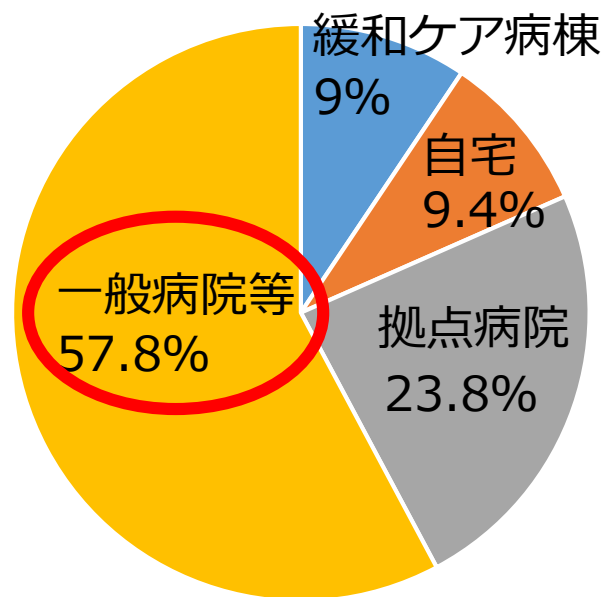


調査結果の代表性に課題がある

患者さんが亡くなる前に利用した医療や療養生活に関する 実態調査

先行研究の課題

- 一般病院や自宅死亡の調査対象者が限定されている
- わが国のがん患者さんの死亡場所と比べて調査対象者に偏りがあり、結果の代表性に課題がある



がん患者さんの死亡場所（2013）

わが国全体の実態を明らかにするため、厚生労働省働省委託事業として国立がん研究センターが全国調査を実施する

平成29年度：一次調査

平成30年度：二次調査（予定）

患者さんが亡くなる前に利用した医療や療養生活に関する 実態調査

目的

大切な最期の時間をその人らしく、より良く過ごすことができる医療を実現するため、患者さんが亡くなる前に利用した医療や療養生活の実態を明らかにする

対象者

厚生労働省 人口動態調査の死亡者情報より、2016年に「がん」「心疾患」「肺炎」「脳血管疾患」「腎不全」で亡くなった患者さんの中から、無作為に選ばれたご遺族 約4800名

調査方法

郵送によるアンケート調査

調査項目

患者さんが亡くなる前に実際に受けられた医療の質や療養生活の状況
患者さんの医療に関する希望
ご遺族の方々が介護を通して感じられたこと 等

調査実施時期

調査票は、2018年1月末頃より順次送付